

令和6年度 全国学力・学習状況調査について

(本調査は、全国悉皆調査で第6学年児童生徒を対象に4月に実施されたもの)

1 学力調査に関する結果の概要

【国語】

- 書き表し方を考える際に、情報と情報との関係付けの仕方や、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解することができている。
- 文学的な文章の読み取りにおいて、叙述から人物像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができている。
- 日常的に使う漢字を文の中で正しく使ったり、文の中における主語と述語との関係を捉えたりすることに課題が見られる。

【算数】

- 円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができている。
- 除数が小数である場合の除数の計算をすることができている。
- 円柱の展開図について、直径や円周の長さや円周率との関係を捉えることに課題がある。

2 児童質問紙に関する結果の概要

- 「ICT機器を授業でほぼ毎日活用している」と答えた子供が全国平均の2倍以上あり、目的に応じて活用することができ、友達と考えを共有したり協働したりしながら学習する力が身に付いている。
- 「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と答えた子が県に比べて2倍ほど高い。
- 自分と違う意見について考えようとする意識に課題がある。
- 自分にはよいところがあるという自己肯定感が県や全国に比べて低い。

3 取組についての評価

(1) 教科に関する取組

① 効果があった取組

- ・授業改善の推進(子ども自身が学習を進める「セルフ授業」を全学年で取り入れた授業の実施)
- ・日常的に子供同士の教え合いを大切にした1単位時間の工夫(「ぐんぐんタイム」の実施)
- ・算数科における自由進度学習の実施

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・語彙を増やし、日常的に言葉にふれる機会の確保(朝タイムの取組内容の見直し)
- ・子どもの興味・関心に応じた探究学習の設定と異学年交流の場の確保

(2) 児童質問紙の内容に関する取組

① 効果があった取組

- ・教育活動全体でタブレットを積極的に活用する取組の推進
- ・児童の課題や情報を全職員で共有し、個に応じた支援を検討する組織体制の確立

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・友達や自分の意見や考えを「聞きたい・話したい」と思える単元や授業内容の工夫
- ・教職員の外部研修の受講促進や学力向上のための研修会の実施